

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 11
2017. 3

TOPICS

1

寄付講座、ホール建設プロジェクトが始動 包括協定を締結



本学と株式会社ストライプインターナショナル、公益財団法人石川文化振興財団、石川康晴氏は3月6日、「文化的教育的プログラムに関する包括協定」を本学津島キャンパスで締結しました。

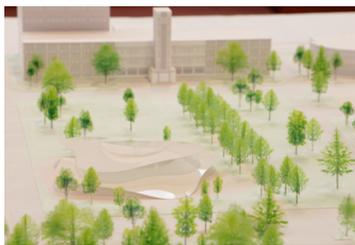
世界的に活躍できる起業家らの育成を目指す寄付講座「ストライプ講座(仮称)」を2018年度から開設し、その拠点となる新施設「ストライプホール(仮称)」を本学津島キャンパスに建設するなど、さまざまな連携を進めていく予定です。新施設は、本学のJunko Fukutake HallやJunko Fukutake Terraceを設計した世界的建築家ユニット「SANAA」が担当。新講座の開発には、前エバーノートジャパン会長の外村仁氏がアドバイザーとして携わります。

同日、津島キャンパスで開かれた調印式、記者会見には、森田潔学長、株式会社ストライプインターナショナル社長であり、

公益財団法人石川文化振興財団理事長の石川康晴氏、外村氏、有限会社SANAA事務所の妹島和世氏、西沢立衛氏が参加。森田学長と石川社長が協定書に調印し、包括協定を締結しました。

記者会見で、森田学長は「グローバルに活躍できる人材を育成するためのストライプ講座とストライプホールは、岡山大学の新たなシンボルになる」、石川社長は「世界レベルのプログラムを岡山大学で実現し、地域の若者たちに刺激を与えたい」と話しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6536.html



法務研究科が香川大学法学部と 教育連携協定を締結

TOPICS

2

本学大学院法務研究科(岡山大学法科大学院)は3月22日、香川大学法学部(高松市)と教育連携協定を締結しました。本研究科が他大学と教育連携協定を締結するのは昨年7月の九州大学法科大学院との教育連携協定締結以来2度目であり、他大学の法学部と締結するのは今回が初めてです。

本協定は、法学部と法科大学院との接続教育の充実を図り、地域において優れた法律実務家を養成するための環境を整えることを目的として締結。具体的には、本研究科の教員が香川大学法学部でオリエンテーションや進学説明会を実施したり、法科大学院進学希望者を対象とした授業の運営に協力したりすることを予定しています。参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6587.html



最近の大学の取り組み

「学都基金理事会・感謝の集い」を開催

本学は3月8日、学都基金の運営全般について討議する「学都基金理事会」、学都基金の高額寄付者25人を招待した「感謝の集い」を岡山市内で開催しました。

理事会は、学都基金発起人会の県内企業、同窓生、学長、理事ら21人で構成され、第1回目である今回は、基金獲得のための方策や基金運営に係る方針などを話し合いました。感謝の集いでは、森田潔学長から高額寄付者へ感謝の楯が贈呈されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6545.html



TOPICS

3

平成28年度岡山大学学位記等授与式を挙



本学は3月24日、平成28年度学位記等授与式を岡山県総合グラウンド体育館(ジップアリーナ岡山)で行い、学部生・大学院生ら計3,160人の門出を祝福しました。

式では国歌・学歌斉唱に続き、森田潔学長が学部・研究科などの総代21人に学位記・修了証書を授与。学業成績と人物がともに優れた学生に授与する「岡山大学黒正賞」の受賞者16人の表彰も行い、代表者に賞状を贈りました。

森田学長は「何事であれ、いつであれ、どこであれ、全てが学びの対象であり、学びの機会であり、学びの場所となる。最大の努力をすることで、人生の成功をもたらし、輝きを増してほしい」と式辞。卒業生・修了生を代表し、農学部の佐藤日向子さん、環境生命科学研究所の杉田篤彦さんが答辞を述べました。



参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6581.html

日本医療研究開発機構 (AMED) の「橋渡し研究戦略的推進プログラム」に採

TOPICS

4

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の平成29年度「橋渡し研究戦略的推進プログラム」に3月1日、本学が採択されました。本事業は、平成19年度に開始された「橋渡し研究支援推進プログラム」、平成24年度に開始された「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」等において整備されてきた革新的医療技術創出拠点の基盤活用を念頭に、日本全体で橋渡し研究を効率的に推進する体制の構築を目指すものです。本学を含め、全国で10拠点が採択されています。

同プログラムは「健康寿命の延伸を目指した次世代医療橋渡し研究支援拠点」の課題名のもと、平成26年に採択された橋渡し研究加速ネットワークプログラムの後継事業として、医学、歯学、薬学、栄養、介護など多様な分野で医療技術、機器、健康支援製品などの研究開発を実施し、中国四国地域の大学、病院からの研究シーズ実用化へつなげる体制整備を本格化していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6564.html



RESEARCH HIGHLIGHTS

1

イヌの歯の再生に成功
ヒトにおける完全な歯の再生治療の実現可能性を証明

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野の窪木拓男教授、大島正充助教、同研究科分子医化学分野の大野充昭助教、理化学研究所多細胞システム形成研究センターの辻孝チームリーダーらの研究グループは、器官・臓器の種となる器官原基を再生する細胞操作技術(器官原基法)を用いて、大型動物モデル(ビーグル犬)における構造的・機能的に完全な歯の再生を実証しました。

本研究成果は3月16日(英国時間午前10時、日本時間午後7時)、国際的な科学雑誌『Scientific Reports』に公開されます。本研究成果は、将来の歯の再生治療の実現可能性を証明するためのトランスレーショナル研究として位置づけられるものであり、分泌腺や毛髪などの多臓器にも応用可能な器官再生医療の発展につながるものとして期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id457.html



RESEARCH HIGHLIGHTS

2

光触媒新技術で二酸化炭素を出さない水素製造が可能に
夢の太陽光エネルギー変換効率50%へはずみ

岡山大学大学院環境生命科学研究所の高口豊准教授・田嶋智之講師と山口大学、東京理科大学らの共同研究グループは、カーボンナノチューブの光吸収帯を利用した水分解反応による水素製造が可能であることを明らかにしました。

カーボンナノチューブはこれまで、光触媒の光吸収材料としての利用が困難であると考えられていました。一方、カーボンナノチューブは、従来の光触媒技術では利用できない赤色光～近赤外光(波長600～1300 nm)を吸収できることから、本研究成果により、太陽光エネルギーの変換効率の大幅な向上が見込まれ、光触媒を利用したCO₂フリー水素製造技術への応用が期待されます。本研究成果は3月6日、英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id451.html

